



住所 : 〒 514-0007 三重県津市大谷町 12

TEL : 059-226-3512 (代表)

URL : <http://www.mpec.jp/>

従業員数 : 約60名 研修分野(三重県総合教育センター)

## Case Study

導入例の紹介

CTT+ の考え方で、授業について語るときの“共通基準”を作り、教師が御互いに語り合える環境と、「授業力」の向上を狙う

### Target Section

平成15～19年度の5か年間で県内全ての中学校・高等学校英語教員を対象に「英語教員集中研修」を実施している。全8日間の研修日程の研修内で、CTT+の内容を活用したものを取り入れている。

### Mission

授業の継続的な改善により、実践的コミュニケーション能力の育成する。「わかる」段階でとどまらずに、英語が「できる」「使える」生徒を育てる。

### Before

- ・授業を評価するための視点が共有されていないため、授業公開を行っても感想の交換しかできず、次回の授業への改善につながらない。
- ・「いい授業」「わかりやすい授業」をスキルとして捉えられない。
- ・「いい授業」「わかりやすい授業」とはどのような授業なのかの説明ができない。

### Action

#### ① 授業評価の視点と、授業の「基本戦略」を学ぶ。

- 授業力とは？
- 授業の基本戦略の構造とは？

#### ② 授業評価の視点をスキルとして捉え、スキル強化の演習を行う。

- 信頼性を獲得するスキル
- 達成感を持たせるスキル
- 活動をスムーズに行うスキル

#### ③ 学んだスキルを駆使し、7分間の模擬授業とフィードバックを行う。

- 受講生同士のフィードバック

#### ④ さらに、スキル強化の演習を行う。

- 動機付けのスキル
- 質問のスキル

#### ⑤ 学んだスキルを駆使し、15分間の模擬授業とフィードバックを行う。

- 今後の課題設定

基本戦略

スキル強化

7分模擬授業

さらに  
スキル強化

15分模擬授業

After  
裏面へ

# After

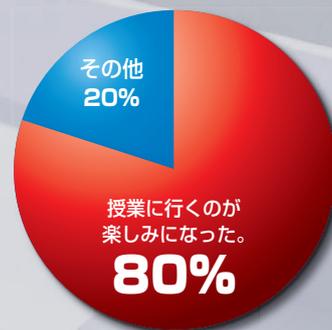
7割～8割の参加者が、研修前よりも「授業に行くのが楽しみになった」と感じている。

Q. CompTIA CTT+ の研修後に授業を行う気持ちに変化はありましたか？

これは自分の「強み」と「弱み」をスキルとして認識し、改善への手だてが見えてくるようになったからである。

授業を見る視点を共有してから模擬授業を行うことで、「授業を見せる」ということへの抵抗感が少なくなった。

授業を見たときに、授業改善につながるフィードバックができるようになった。



## 現場の声



三重県教育委員会  
谷口 様

学校で教師をやっていると、ほぼ毎日、生徒という集団を対象に、「説明する」「理解させる」「納得させる」「行動させる」活動をしています。それに関わらず、プレゼンテーションのスキルを意識することがあまりありません。私自身も、12年間高校に勤務している間、「自分の話を理解できないのは生徒のせい」「生徒は教師の言うことをきちんと聞くもの」という姿勢でいました。またそういうプレゼンテーションのスキルというのは「そもそも評価などできないもの」、ですから「素の自分の魅力で勝負」、となります。それでは授業改善どころではありません。より適切に伝える手段があり、それはスキルとして習得できる—そんなことをできるだけ多くの先生方に伝えるために研修にCTT+の考え方を取り入れています。

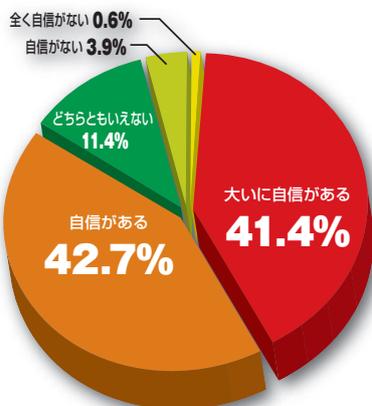
## 取得者の声

- ・学習者としてどんなステップを踏めば力がつくのか、ということが体験できた。
- ・動機付けができると、その後の授業が大きく変わる。
- ・最初の5分と最後の5分を大切に、基本戦略にのっとった授業展開をめざしたい。
- ・指示を短く的確に出すと、生徒は活動をスムーズに始める。
- ・模擬授業で「ほめられるとこんなに嬉しいものか」という体験をした。
- ・授業をするには明確なゴール（目標）の設定が必要であることを学んだ。

## CompTIA Research

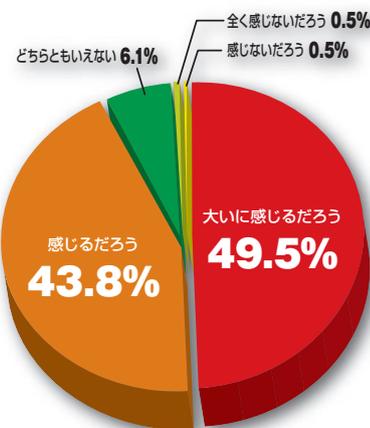
CompTIA 本部によるCompTIA 認定資格取得者に対する調査で、自らの業務に対して自身を持っていることが分かりました。（“Measuring the value of CompTIA Certification” より）

Q. 「私は業務に必要な全ての技術を持っています。」  
(N=660)  
(IT 現場業務従事者)



A. CompTIA 認定資格の取得により、現場業務従事者は自分の能力に大変自信を持っています。殆ど全員が業務に必要とされる技術は持っていると回答しています。

Q. 「私と話したとき、この人は十分技術力があると顧客が感じることが出来ます。」  
(N=660)  
(IT 現場業務従事者)



A. 殆ど全員が、顧客への高レベルのサービスを提供できるとし、半数近くは“絶対的な自信で”できるとしている。